（廿八日夕刊）
磐城新聞
廣告料（雜報欄一行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人 蓮沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所 磐城新聞社 電話五六〇番

祝天長節

勅語

朕皇祖皇宗ノ威靈ニ頼リ萬世一系ノ皇位ヲ繼承シ帝國統治ノ大權ヲ總攬シ以テ踐祚ノ式ヲ行ヘリ舊章ニ率由シ先德ヲ聿修シ祖宗ノ遺緒ヲ墜ス無カラン事ヲ幾フ

惟フニ皇祖考叡聖文武ノ資ヲ以テ天業ヲ恢弘シ內文敎ヲ敷キ外武功ヲ耀カシ千歲不磨ノ憲章ヲ頒チ萬邦無比ノ國体ヲ鞏クセリ皇考夙ニ心ヲ養正ニ宅キ洒チ志ヲ繼明ニ尙クス不幸中道ニシテ聖體ノ不豫ナル朕儲貳ヲ以テ大政ヲ攝ス遽ニ登遐ニ遭ヒテ哀痛極リ罔シ但シ皇位ハ一日モ之ヲ曠スヘカラス萬機ハ一日モ之ヲ廢スヘカラス哀ヲ銜ミ痛ヲ懷キ以テ大統ヲ嗣ケリ朕ノ寡薄ナル唯兢業トシテ負荷ノ重キニ任ヘサラムコトヲ之レ懼ル晚近世態漸ク以テ推移シ思想ハ動モスレハ趣舍相異ナルアリ經濟ハ時ニ利害同シカラサルアリ比レ宜ク眼ヲ國家ノ大局ニ着ケ擧國一體共存共榮ヲ之レ圖リ國本ニ不拔ニ培ヒ民族ヲ無疆ニ蕃クシ以テ維新ノ宏謨ヲ顯揚セムコトヲ懋ムヘシ

今ヤ世局ハ正ニ會通ノ運ニ際シ人文ハ恰モ更張ノ期ニ膺ル則チ我國ノ國是ハ日ニ進ムニ在リ日ニ新ニスルニ在リ而シテ博ク中外ノ史ニ徵シ審ニ得失ノ迹ニ鑒ミ進ムヤ其ノ序ニ循ヒ新ニスルヤ其ノ中ヲ執ル是レ深ク心ヲ用フヘキ所ナリ夫レ浮華ヲ斥ケ質實ヲ尙ヒ模擬ヲ戒メ創造ヲ勗メ日進以テ會通ノ運ニ乘シ日新以テ更張ノ期ヲ啓キ人心惟レ同シク民風惟レ和シ汎ク一視同仁ノ化ヲ宣ヘ永ク四海同胞ノ誼ヲ敦クセンコトヲ是レ朕カ軫念最モ切ナル所ニシテ丕顯ナル皇祖考ノ遺訓ヲ明徵ニシ丕承ナル皇考ノ遺志ヲ繼述スル所以ノモノ實ニ此ニ存ス有司其レ克ク朕カ意ヲ體シ皇祖考諧ヒ皇考ニ効セシ所ヲ以テ朕カ躬ヲ匡弼シ朕カ事ヲ奬順シ億兆臣民ト倶ニ天壤無窮ノ寶祚ヲ扶翼セヨ

懸賞◆發表◆

者は本日在平新聞記者五名立會の上嚴撰しました當選者は本紙三十日夕刊に發表

新更昭和の使命

先帝崩御の悲しみに同胞赤子が哀悼の涙新らしきうちにも、今上天皇陛下の下に希望に充てる踐祚後當初の天長の佳節を迎ひ奉る事は詢に感慨にたへざる次第である畏れ多いことであるが新帝陛下の

朝見の儀 を行はせられた時の御勅語に「皇位は一日も之を曠しくすべからず、萬機は一日も之を廢すべからず哀を銜み痛を懷き以て大統を嗣げり」と仰せられたやうに先帝の登遐と新帝の踐祚とは同時に來るので皇室を始め奉り國民一同は非常の悲痛と非常の希望とを一時に經驗せねばならぬ、併し人間が最も眞面目に歸るのは得意の際ではなくして人生の悲慘事に遭遇した秋である。我等赤子は先帝の登遐を悲しみて御鴻績を追慕し奉る其の敬虔なる

心情から 出發して新帝の下 國民として偉大なる抱負を培養せねばならぬ「令嚴夜寂寥」とは肅然として靜かなること林の如き名將の陣容を歌つた詩句であるが兵も國も傲る者は必ず危く絶大なる事業は敬虔なる動機より發するとは實に古今の金言である殊に昭和と云ふ年號は

書經の堯 典にある百姓昭明協和萬邦の句から出たもので內は君民一致の新睦を極め外は列國協同の平和を致すといふ意味に外ならぬ更に曉典の字義から推究すると協和萬邦とは單なる平和政策を行ふといふのではなく天子の位に在る者が克く俊德を明かにして先づ手近き九族の親を和睦せしめ此の心を推して內治外交に及ぼすことで畢章高遠なる理想と盛大なる明德とを充當せる實力とを以て萬邦を導きて共存共榮の實を擧ぐる所以である併も斯の如き絶大の事蹟を

修身齋家 の德より出發せしめやうといふ所に東洋道德の精髓が現はるゝ。略言すれば昭和は正義と親悄とを內外に徹底せしむべき嚴肅にして且偉大なる決意を象徵するものである。大行天皇の治世に際し世界戰爭は人類をして非常の試煉の下に立たしめた。隨つて政治經濟生活の上にも幾多の思想幾多の計劃が勃興し一時所謂狂簡斐然として章を成すの概があつた。然るに今や世界は既に此等の思想を實生活の上に經驗して其の歸趨は自ら明白となり

舊來の陋 習は打破せらるゝと共に過激なる妄想は一場の夢たることが漸次立證せらるゝに至つた。此時に當つて「浮華を斥け質實を尙び模擬を戒め奬造を昂めよ」と仰せられたのは世界の經驗に立脚して獨自の創造に訴へ以て百姓を平章にして萬邦を協和する所以を講せよとの御意であらうと拜察する模擬は宜しくないが舊習に泥むことは戒めねばならぬ質實にして創造的なることは乃ち新興國民の使命を果すべき素質であると思ふ明治天皇は十六歲にして大統を嗣がせ給ひ孝明天皇の諒闇中萬機は一日も之を苟もせずして明治維新に向つて

着々步武 を進められた。而して我が同胞の先輩功臣達は能く內外の大勢を察して大業に贊翼し彼の江戶城の接受の如き一兵に衂らずして同胞新睦の間に行はるゝことが出來た。斯くて明治年間に於ける國民的大飛躍の基礎は同胞親睦百姓昭明の上に打ち立てられた。新帝陛下は同じく壯年にして大統を繼がせられ昭和の治世に於て國民と共に進むべき大道を指示せられた。明治大正の治世を經て我國力は大に發展し我國威は大に宣揚せられたが新帝昭和の治世に於て

世界の日 本として大に我帝室の位德と國民の理想とにを顯彰すべき時運に際會して居る內に於ける同胞の親和融合外に於ける列國の共存共榮これこそ昭和の使命でなければならぬ

財界の現狀を 徒らに悲觀する勿れ

磐銀專務 白井一郎氏談

昨年初頭以來財界の推移を回顧するに最も顯著なりし事實は

（一）春來我對外爲替相場は强調の一途を辿り遂に對米爲替四十九弗以上の市場相場を出現するに至つたこと

（二）右に因る外、銀塊相場の低落に基づく銀貨國の物資需要の減退、隣邦支那に於ける時局の不安定若くは原棉の暴落に因る綿糸布輸出の不振等のため貿易關係が前年に比し甚だ冴えなかつた事

（三）財界の整理が著々行はれたる結果、銀行界の不祥事件の發生割合に少なかつたこと

（四）內地物價の著しく低落して來たこと

等その主なるものであつた爲替相場は一昨年の三月以來大体四十一ドル見當を弱保合であつたが同年十二月頃から目立つて擡頭し昨年四月末には四十七ドル四分の一を唱へ

其の後 多少弱含みであつたけれども八月以降銀塊相場の激落、十月政府の正貨現送再開、東京横濱兩市の外債成立、輸出超過金輸解禁實行氣構へ等により爲替相場は强調を呈したが一方之れがため輸出の不振は免れず一月以降十二月中旬までの輸出總額は十九億八千五百萬圓、これを前年同期に比較せば二億四千五百萬圓即ち約一割一分の減少を示した而してその減退の內譯を見るに生糸の一億二千萬圓を首め

綿糸布 の五千六百萬圓屑糸眞綿の千三百萬圓等で他方輸入關係においては國內財界が依然不振を續け內外需要の減退に伴ふ主要原料の輸入手控、爲替の不機安定による輸入の困難、棉花、羊毛相場の下落等により、同じく輸入額は前年同期に比し一八千六百萬圓即ち約七分五厘を減少して二十三億一千百萬圓となつた思ふに前記の如き事情の下にあつては貿易狀勢の

不振は 免れざる所で若し今後の爲替相場が現勢を維持するものとせば輸出入業者共に深く念を此處に置き商略をあやまらざる樣注意が肝心である、次に財界は年頭にたいては前途緩漫氣構へにて樂觀の度を過ぎ、この間社債の頻發等ありしも事實はその期待を裏切るの結果を生じた、而して秋來緩漫狀勢に轉じ日銀金利の引下が實行せられたので年末の金融界は極めて平靜裡に

經過し たが財界の根底は震災手形の處理、銀行の整理合同等と幾多の重大問題が横たはつた結果一時的ではあつたが遂ひに今次の如き空前の混亂を呈したのである、然し政府の最も機宜に適切なる應急策により官民合同以て濟界の安定に步一步つゝ進めつゝあるは誠に喜ぶべき事にして猶ほ來るべき臨時議會に於て日銀補償案の通過を見る樣になれば確實に安定するであろう然し恒久の爲め官民更に一段の努力發奮を要するのである。蓋し大正九年の財界反動、續いて關東大震災による財界の瘡ゐに對しては爾來官民擧げてこれが恢復に努めたが未だ根本に觸れたる整理が充分に行はれて居らぬので今後これがために猶相當の年月を要すとせば、その間新に

暗礁の 出現をも保し難いわけでこの際徹底的に恢復を圖るの要がある。吾人は財界の現狀につき徒に悲觀することを愼め寧ろ勇往邁進以て難局の打開につとむると同時に積極的に國力の伸長發揚を計ることこれ即ち光輝ある昭和の新建代を迎ふる所以なりと信ずる次第である(文責記者)

石城郡銀行組合

磐城銀行
專務取締役 白井一郎
支配人 草野順平

平銀行
頭取 山崎與三郎
常務取締役 木村清治

磐越銀行
頭取 中野甲藏
支配人 瀧澤俊平

磐城實業銀行
頭取 馬目太平
專務取締役 鈴木辰三郎
支配人 鈴木源藏

磐東銀行
頭取 江尻博孝
專務取締役 金成通

四倉銀行
頭取 吉田安之助
專務取締役 戶田兵藏

七十七銀行平支店
支店長 小原長英

第百七銀行平支店
支店長 田中稔

農工銀行平支店
支店長 河西八十治

常磐銀行出張所
主任 鷲久三

皇室中心主義を標傍する 健全分子の大同團結
常磐各大炭礦の右傾團体が 既に合同の準備に向つて邁進し 斯くして勞資協調の確立

常磐地方各炭礦には最近日本坑夫組合支部其他左傾團体の簇行と共に勞働爭議爭件の斷ゆる間なく頻りに爭議の渦を卷き起してゐる即ち過般磐城炭礦に次ぎ入山、古河、藤原、大日本の其各炭礦とも連續的に爭議を釀し引きつづき入山に移つて既に二十餘日、今猶ほ全く平靜に復したりと認られざる狀態にあるので、各炭礦會社は夫々健全分子を以て所屬團体を組織し、其の都度爭議團に對抗せしめて來た而して各炭礦首腦者等は常磐炭礦恒久の平和を確保する爲め之れ等會社と勞働者の圓滿を計る右傾團体の大同團結をなす必要ありとし種々計劃中であつたが茨城縣下の大倉無煙は和泉、高橋勞務課長磐城炭礦無煙部淨法寺所長、大日本館所長の諸氏は既に右各會社所屬團体の糾合方法について打合せを了し更に、本縣下の磐城炭礦靑沼部長、濱崎課長、大方筒井係長、古河湊谷課長、前松、安孫子兩係長、入山吉田部長、前田顧門、門井主任の諸氏また不日打合會を開いた上有煙無煙常磐各炭礦所屬團体の大同團結を行ひ皇室中心主義に則る健全な勞資の協調に備いる筈で將來常磐地方炭礦の之れ等團体の活動は大いに期待されてゐるが各炭礦所屬團体の幹部名左の如し

△古河鑛業元山自治會（會長）西連寺章豪（副會長）佐久間民彌（監査）安川國悟、熊谷龜藏（區長）丸山春藏、西連寺章豪、有我嘉七、小野寺平藏、熊谷龜藏

△古河新斜坑自治會（會長）鹽澤軍太郎（副會長）益子正之（監査）田口耕作、網木末太郎（區長）高橋龜松鍬野岳重、草野孝朝、中原四郎、鹽澤軍太郎、鈴木寅五郎、本間留五郎、益子正之、西村武夫、淺川藤一、小野彌平

△入山立國勞働自治會（會長）馬目子之松（副會長）門馬己之松、鬼澤八百松（幹事長）渡邊九郎兵衛（會計主任）小松勝造（相談役）管野彌助、河端久治、野村貢（幹事）一區管野重政、二區橋本泰次三區星辰吉、四區管野代重、五區鯨岡浪次、六區泰樂砂、七區坂内常太郎八區高橋勇五郎、九區齋藤淸、十區小管牛一郎十一區石川君太郎、十二區星丑松、十三區金澤多左エ門、十四區靑木國吉十六區宍戸政吉、十七區宮本利一郎（宣傳部長）高橋勇五郎（宣傳副部長）瀨谷駒吉、齋藤淸、河端久次、小管牛一郎（宣傳部員）武田豊吉、紫田忠三郎　以上

△磐城炭礦磐炭會役員（會長）若松惣太郎（副會長）高木直之助、熊澤源二郎（會計）五十嵐政吉、齋藤榮光（書記）若松淸三、瀧田明（應接）佐藤作造（第一支部長）廣谷鹿太郎（第二支部長）中島菊治（第三支部長）近藤丹三郎（第四支部長）西川元市（第五支部長）渡邊豊介（顧問）大内民吉（相談役）宗像敬二外八名（幹事）内藤春吉外二百餘名　以上

△大倉鑛業無煙炭礦建國勞働自力會（會長）平久江直次郎（副會長）石川新太郎（顧問）長谷川重兵衛（相談役）長谷川末松、山田庄三郎、萩谷孝（幹事長）星賢太郎

△建國勞働自力會三坑支部（支部長）鈴木晃之助（副支部長）篠原喜代造（相談役）良玄長松、星由三大沼常吉、川又仙之助安孫子誠一（幹事長）鈴木勇右エ門（顧問）平野繁次

△建國勞働自力會四坑支部（支部長）松本治平（副支部長）本田伊七（顧問）生田目榮助、爲我井亥之吉上田長一（相談役）藤田義彦。田中松吉、大貫國光爲我井鑒（幹事長）小田倉省志（以上）

三遺族を殘して 救助金支給濟み
一般からの同情に感泣 磐炭災害後仕末

磐城炭礦では堅坑變災事件の犧牲者百卅四名の遺族を救濟るため規定に依る扶助料の二倍に相當する十五萬餘圓を支出する事に決定其他社外各方面からの義捐金數萬圓と共に各遺族に支給してゐる事屢報の如くであるが戸籍其の他の關係から扶助料を給與する正當の者が發見されない等の事からなほ三名の支給未濟のものもあつたが今明中には此れまた支給を完了する見込であるし未曾有の磐炭變災事件も此處に全く一段落を告げる事となつた此れに就いて濱崎勞務課長は「殘餘三名の遺族に對して今明日中には扶助料を支給完了出來るものと思はれますがあれ程の變災事件も各方面からの御同情に依つて案外速に片付く事が出來たので私共は勿論會社は心から感謝の辭を吝みません財界の混亂時に遭遇したため多數勞働者を使用してゐる當會社の事でもあり給料支拂等に就て大分各方面から憂慮されてゐた樣ですが此れまた滯る事なく支給出來得る事になつて居ります」云々と語つてゐた

〔鰹期を前に活氣づいた小名濱港〕

財布を盜む
小田の坑夫盜む

石城郡赤井村三島上川原佐々木盛（三〇）假名は去る二十三日夜好間村北好間椎木中小田炭礦渡邊新吾方飯場に働き中同飯場後山夫岸角造の所持金六圓八十錢在中蟇口一個を窃取し二十七日平署に逮捕された

暖簾は古く品新らしい 鹽屋の食料品
山崎父子の德望が積んで 萬代動かぬ信用

本縣醸造界に名聲を轟かすヤマフル醬油醸造元の平町鹽屋本店は創業遠く天保十一年の古き歴史を有し地方稀に見る老舗である、創業當時の醸造高は僅か二十石を越さなかつたがヤマフルの商標は當時既に定評を博し實質的名聲を謳はれつゝ八十五箇年三代を經て現在に至つたのである當代山崎與三郎氏は德望の聞ね高く誠實本意に一歩一歩堅實な基礎を作り上げヤマフルの聲價は破竹の勢力を以て日毎に進轉し現在五千八百石を醸造して本縣第一等の醸造高を示すに至つたのである、當主人山崎淸三氏は克く嚴父與三郎氏の德をつぎ早大出身の少壯有爲の神［illegible］で新進氣銳の才腕は內よく五十餘名の店員を指揮統師し外よく商道を拓き益々信用高め來たり最近期せずして著るしき販路の擴大となり取引先きは遠く横濱、東京より水戸、下館中通りは宇都宮、白河、郡山を經て仙臺遠く秋田方面まで張き根張りと壓倒的勢力を以てヤマフルの地盤石の强固さを握り締めたのである而して過春更らに復興の後東京に一大飛躍を試み東京下谷區役所前に東京支店を開設更に合名組織に改め平署側に彼の廣壯な營業を開き醬油の外に月桂冠を凌ぐ銘酒「榮冠」を首め品質最も優良なる鰹節その他食料品の販賣をもなしつつあるが流石一流の商法による同店は各品とも「勉强」の二字に盡き日に〳〵繁昌を見てゐる

關東北々海に亘り 絶大の威力と信用
大小の工事は一手に 躍進の堀江工業

地方にたいて土木建築請負を業となすもの決して尠少ならざるが、關東、東北、北海道方面にまで手を延ばし堂々たる營業振りを示してゐるのは、平町江口忠一氏を社長とせる堀江工業株式會社である、同社は現在本店を平町に置く外宇都宮市、青森縣湊町、岩手縣盛岡市、北海道函館市及び本縣江名町、四倉町等の各地に出張所を設け、同地方土木建築の大小工事に手を染めぬものなしといふも過言ではない、而して同社の營業科目中、土木建築請負は元より、鐵筋コンクリート工事河海潛水作業等を得意とし、一方品質優良との定評ある磐城セメントの特約販賣をなし、姉妹會社として、萬年工業會社を起し、磐城セメントを原料として、萬年瓦を製作し價格の低廉と、耐久力の强きとを以て一般需要家の好評を博してゐるが就中諸官署、學校等の建築工事に歡迎せられてゐる、社長江口忠一氏は業界稀にみる人格者として知られ、天性の義俠心は能く多數の部下を心服せしめ、今日の大をなすに至つたもので、資性豪放磊落、しかも思慮縝密、能く不斷の努力を惜まざるため今後ますます業務の隆盛を見るべく期待されてゐる、

好評嘖々たる 高久病院
院內常に和氣と 患客で滿つ

平町には幾多の病院が存在してゐるがその內殊に人氣と評判の中心にある平驛前裏通りに高壯な構ひをした高久病院である、仰々同病院が斯く隆昌の域に達し世人が推讃の辭を惜しまない所以のものは同病院が常に其方針堅實を主とし、患者には公平親切を旨として來た爲めで、實に開業十五六年の今日よく有り勝ちな忌はしい批評の一つも聞かず院の內外常に絶えざる患客を以て滿たされ隆々發展の途を辿りつゝあるのは一に經營方針の宜しきに依るは勿論であるが是は又高久病院長、赤羽副院長、佐竹藥局長其他看護婦庶務員等の全員協力一致の實を擧げて居る結果に負ふ處が多く一度び病院を訪ふ者は院內常に和氣靄々の情漲るを見得るであらう、從て同氏の家庭も模範的なもので、賢夫人としての令聞、秀才としての令息、令孃等も附近での評判である

理想的に整つた 平產看學校
淸野女史の健鬪で 將來益々發展

石城地方に於て最も評判よい產婆看護婦の養成機關たる平町南町平產婆看護學校は最近頓に發展し校舍の狹隘甚だしいので昨年校舍の大增築を起工し二階建洋風の廣壯な校舍を竣工した、同校は階下を教室並に試驗室に宛て二階は寄宿舍、並に姙婦入院室等に充てた完備した理想的校舍で同校の發展を如實に物語つてゐる校長淸野きよ子女史は稀に見る現代女性の典型として教育に志す以外愛國婦人會幹事その他の要職にあり專心社界的に貢獻してゐる

高坂五人賭博

廿六日夜午後八時頃磐城炭礦高坂坑小室房吉方で同礦小室留吉郎綴坑瀨戸七郎右エ門の三名が金錢賭の花合を開張中平署員に探知逮捕された

荒川記者出發

いはき新聞平支局記者荒川淺吉氏は今般宇都之宮支局に榮轉する事となり卅日午前十時沉十分平驛發上り列車にて赴任の途に就く筈

將來を期待される 昇天の日東商會
創業尚ほ日淺くして 長島氏獨自の力

平町白銀町日東商會は大正十年商會主長島早苗氏の手によつて創立された

會主長島氏は大正六年九州の工科大學を卒業し其後實地について研究し確固たる信念を以て今日の商會をきづき上げたので、その間に於ける氏の努力は何人もいなむ事は出來ない同商會は發電機電動機、變壓器、配電盤、器具材料、送電線路、配電線、發電所變電所設計電燈電力工事設計監督並に請負礦山農事工業機械各種ポンプ外高壓器油を等營業要目として販賣してゐる、先年の頃から北海道石狩國モジリ炭礦並に茨城縣大倉無煙工業に支店を開設同地方の販路を擴張してゐる、磐城セメント會社、並に入山炭礦其他炭礦等に使用

機械器具類は大平同商會に於て一手販賣してゐる、新進事業家長島氏が獨自の力は以つてどれだけ大きな事がそれは未知數の問題だが今日まで氏が事業上の努力と手腕とは必ず將來本縣は勿論東北に於て優位をしむる時があるものと信じられる

磐炭會社が 鶴燒賃負擔
來月から實施

內郷村磐城炭礦會社では坑定發表したが此れがため會社は鶴燒賃一ヶ月の負擔は約千五百圓を要する見込であると

松魚の漁期近く 各濱準備を急ぐ
去年の損を埋めようと 石城濱一齋の活況

磐城各濱は昨年夏期の經濟以來不漁續きで各當業者は全く文字通りの四苦八苦の狀態にあり中には本郡は資金難から休業の餘儀なき破目に陷つて者さへあり悲慘の極に達したので各濱漁業組合では縣並に主務省から低利資金の融通を受け局面の打開に奔走して居たが本年も愈五月中旬から鰹漁期に入るので各濱共それぞれ出漁の準備に怠りない而して本縣小名濱水產試驗場船磐城丸は近日中九十九里濱銚子濱方面に出漁し鰹漁の調査をする筈であるが目下のハシリ鰹の水揚相場は一尾四圓であると

礦山節
××會社　山田三郎

「吾等がツルハツ採らぬ時吾等が斧の錆びる時、朱ふンの宰相威嚴なく、紫綬の將軍名譽なく、海陸忽ち便り絕ね、世は混純となりぬべし」かな、すべからくゑらいものさ、小さな平町都落を大平市とさせる働きなんか何にも恩に被せるわけぢやない、一つ聲の美いとこで酒の肴をやらして貰ふか、俺ら理屈は拔きだ、只大きな聲で唄いていんだ、やるかな、やるかな、オイ兄弟そんな不景氣づらは顆むからよして呉れよ。

×　×

地下で三萬尺ドンと來い
ドンと腕はくろ金ガンと
鳴る腕よ
サベロ、ツルハシ、スコップにタガラ
積んで出せ積んで出せカラガラガラと
金が出る出る磐城の山に
朝の六時からカンテラ提げて
山の上下七千人が仲間
黑い汗してセッセと稼ぐ
住めば都よ一寸來て九年
小金たまれバ孫子もふゑる
可愛い女房は仕事も一つ
仕事しまへバ一杯のんで
唄よ
醉ぢや日本一たいらが女房
女房唄へバ娘が踊る

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
（久）釜屋商店
諸橋久太郎
電話 九番 一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽淸
藥劑士 佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

登錄商標
醸造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話 營業部一〇番 醸造工場二七番
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五七二二番
振替東京六八三二二番

內科。外科。婦人科。小兒科。花柳病科
磐城病院
平町田町本通り
入院隨時
（電話一一四番）

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 婦人病 包莖 肛門病 專門 外科部
平南町 松村病院 電話七〇

良品を廉く賣る 釜屋の金看板
新取的營業法を採用し 受けよい若主人

平町本通りに屹然として建つ廣壯な建物の釜屋商店は『良品廉價に優る商略なしを』第一の商是としてゐる當代主諸橋久太郎氏は一切を若主人の守次氏に讓り隱居の姿にあるが其の後を襲ふ諸橋守次氏はまた稀に見る才腕の人である、磐中を卒いて早大商科に學び理濟的に透徹した識眼と卓越した手腕とは常に新取的營業方針を採用し令弟元三郎氏と相協の力を致したる結果ヌキ〳〵取引販路の擴大となり今や東北に冠絶した金物の大問屋として堅實鐵の如き强固さを築き上げて了つたのである、今日如何に大なる濟界の急變より市價に値狂ひが生どよう共小搖ぎさいせないまでに

盤石の堅さを示した

同店は飽くまで客本意に最も優秀なる品を然かも安價に提供の出來る事と多數の店員が克く主人の計化を受け『親切第一』をモットーとして客に接する事とが同店の信用益々篤く今日の繁昌を呈してゐる而してまた同店は本郡稀有の大地主にして縣下地方に幾百町歩の田畑と幾千餘人の小作人とを有してゐるが諸橋氏は常に是等小作人に對しては普通地主として見る能はざる温情

第一主義を垂れてゐる所から一般小作人等は諸橋氏を神の如くに尊敬崇拜し若主人守治氏は平消防組小頭として祇界的飛躍の第一歩に移つたが花々しき活舞臺に立つの時も蓋し遠くはないであらう

店舗を擴張した 三井吳服店 飽迄品質本位

南は水戸より北は仙臺までに於ける第一流の吳服店として時めく平町三井吳服店は柏原幸次郎氏の[illegible]である、力行の人柏原氏は當代稀に見る立志傳中の人にして幾多の難關苦業を越へて築き上げ遂に並びなき絶大の信用を高め現在五十餘名の店員等は東奔西走目まぐるしい忙しさの中に『親切第一』と『良品廉價』をモットーとして人氣を呼んでゐる、當主柏原幸次郎氏は平町會議員として町治に盡伴する所多かつたが後進の途を開くべく退き今は平消防組小頭部長其の他の榮職にあり公共の爲めに獻貢努力惜しみなく行く〳〵は平消防組[illegible]補者として凝せられ三[illegible]繁昌と共に柏原氏の[illegible]流は益々伸展しつ[illegible]の如き大商店の[illegible]平町の誇りとす[illegible]ので猶ほ同店で[illegible]に伴れ今回店舗の[illegible]なし目下記念賣出[illegible]をよんでゐる

眞正銘の看板は 內容の充實
四倉電氣會社は 堅實一點の營業

四倉町四倉電氣株式會社は同町の有力家新妻盛氏等が發起創立したもので、その供給區域及び資本額、共に大ならざるも、內容の充實せると堅實なる營業振りはあまねく識者の認めつゝある處である、從つて毎期頗る好成績を擧げてゐるが、大正十五年下半期の營業概況を見るに電燈一萬四千百八十七燈、動力百五十三馬力の需要實を有し、電燈及び電力料その他を合せ、金四萬九千六百六十六圓餘の收入を得、營業費その他を控除し、金一萬六千七百二十一圓八十一錢の

純益金を擧げ、これを左の如く分配してゐる

一金壹萬六千七百貳拾貳圓八拾壹錢　當期利益金
內金貳千五百圓也　固定資産償却金
差引金壹萬貳千貳百貳拾壹圓八拾壹錢　純益金
金八百八拾八圓拾六錢　前記繰越金
合計金壹萬五千壹百九圓九拾七錢
內金壹千四百圓　法定積立金
金壹千圓　準備積立金
金九千七百五百圓（年壹割貳分）株主配當金
金壹千貳百圓重役賞與金
金五百圓　退職給與扶助基金
金壹千貳百五拾九圓九拾七錢　後期繰越金

內外の面目を改め 更新の東部電營業所
事務に長け圓熟せる外交 武田氏努力の賜

東部電力株式會社平營業所は郡山電氣平支店の後身である郡電が東部電に合併と共に武田精一氏營業所長として据り部下高級、下級所員を根本より改善し內外の面目を改め大東部電の將來に備いたのである、武田所長は頭腦明晰にして克く事務的才幹に長け圓熟せる外交手腕は志すところ一として可ならざるはなく、營業方面は日に月に發展しつゝあるは偏に武田所長の努力の賜として推賞するに難くない、平町が松ヶ岡の櫻花時を初め公共の爲め盡むる場合武田所長は必ず絶大の犧牲を以て盡伴する事が社會の氣受けもよく同營業所に對して最近苦情の一としてない等悉く武田所長の人格と共に同營業所の信用を物語るものであらう

小川江議員 二十五日に選擧

石城郡小川江筋普通水利組合會議員選擧は關係町村一齊に二十五日執行當選者は左の通り

〔大浦〕猪狩廣次郎　酒井良平　鈴木長治　渡邊金治　高崎粂次郎〔草野〕高岡忠　山下淸太郎　江尻七太郎　高岡唯一郎　杉村義隆　渡邊良吉　金賀拾　渡邊豊〔四倉〕長谷川勇太郎　門馬安次郎〔平窪〕小川子之松　松河松治　松本德一　矢吹與助　吉野佐平太〔神谷〕鈴木秀吉　中野惣吉　鈴木與左衞門　鈴木辰之丞　林伊佐五郎

減收豫想の 郡下の麥作 農民は悲觀

石城地方冬作の麥並に紫雲英は播種期來旱天續きで土地が極めて乾燥し肥料の分解不完全なため發育極めて不良で一般當業者は本年は大凶作を招來するではないかと憂慮されて居たが其の後雨量も適番にあり氣温も高まつて來たので漸次發育良好となつたがそれでも尙例年に比し本年は一般に氣温低くために少からず影響を及ぼして居るので本年の各作の收穫は當初の豫想よりは増加するであらうが例年に比し減收と觀測され一般當業者は何れも悲觀の体にある

庭球のコート開き 磐女校の新陣容
櫻井校長以下の指揮で 近日相女と對戰

半歳に近い冬眠からさめて運動のシーズンは來り近頃めつきり女子の運動熱は高まつて來たが縣立磐城高女では今度新たに運動場のうち約六百五十坪を區切り三ツのテニスコートを並べて作り周圍に高さ一間半の鐵骨の固定ネットを設くる事となり目下工事中である地ならし費二百圓、ネット建設費千二百圓で毎日櫻井校長初め生徒達が汗みどろになつてコートの地かためにローラーを廻してゐる完成は五月十日頃で落成式をかね相馬高女の庭球軍を迎へ對抗試合をする事となり昨今猛練習を續け少女たちの血をわかしてゐる

時代劇 邪痕魔道 ◇阪妻映畫◇阪東妻三郎主演◇

『大義』に續いて撮影せる妻三郎の次回作品は邪痕魔道で、原作は阪西夫次郎、監督は古海卓二、撮影は片岡清、キャスト——託間猪之進…阪東妻三郎、父進之丞…中村政太郎、諸井逸馬…中村琴之助、目明し金五郎…阪東要二郎、お絹…森靜子、その母…松尾常盤、お靜…泉蓉子、お秋…巴蝶子、託間家老僕…安田善一郎、等々。

劇と映画

時代喜劇「紺屋高尾」

男の眞の幸福……それは命を賭しての戀!それに報いられた時……そしたものをテーマにした勝見默笑氏一淚の領ける諷刺喜劇戀愛詩四月十六日た撮影開始目下銳意製作中

キャスト　脚色勝見默笑　監督勝見□義　撮影石本秀雄　主演勝見庸太郎　職人彌吉勝見庸太郎、同留公森悦郎、同粂公志茂山剛、同定公山本重雄、友公玉木園一郎、染金主人都賀淸司、澤奄兒島武彥、高尾太夫浦路輝子、女中お竹菁葉光子、娘那智惠美子、藝者夢路衣川陽子、女儀三保松子以上

三井吳服店 階上の陳列 非常な人氣

平町三丁目三井吳服店が去る廿六日より新館落成の披露大賣り出しで非常な人氣を呼んで居るが更らに今廿八日午後六時からは新館階上の陳列を開始する事になつたので此れまた人氣を沸騰させてゐる

鈴木氏出福 今日午後歸平す

石城政友倶樂部幹事長鈴木辰三郎氏は二十六日午後出福廿八日午後歸平した

磐城中學校の 陸上運動會 兒童作品展も

縣立磐城中學校々友會主催第二十九回陸上大運動會は來る五月五日午前八時から同校グラヴンドで開催するが、同日同校舍內にエッキス會展覽會並に郡立小學校兒童作品展覽會もあはせて開催すると

邪魔物視される 市內の共同便所
是非とも改修したい 平町當局の心底

平町各要所に散在して居る共同便所は何れも不潔と不體裁を窮めて居る特に不驛前通りのそれは不體裁甚だしく町の美感を毀ふ事甚だしいので之が改廢は屢々叫ばれて居るが未だに廢止改修もされず投げやり放題にされ今日に及んだものだか右につき平町役場では驛前の共同便所は屢々廢止位置變更改修等を叫ばれて居るので當局としても充分考慮して居る同所は場所柄廢止となれば不便であらうから廢止することは出來ないが美觀を削かぬ程度に於て本年は是非改修したいと思ふと語つてゐた而して現に町內に散在して居る共同便所は其の數八ヶ所で何れも不體裁と非衛生的の爲め近所の者は少からず迷惑を被つて居ると

料理屋の二階で 女房が亭主を半殺し
酌婦との目付をねたみ 鼻頭に嚙みツク

昨二十七日午後四時頃石城郡赤井村高萩某料理店の女將佐藤イク(三五)は夫源造(二)と共に平町南町の某料理店に登樓し酌婦を侍らし飲酒中女將は疾痴心を起して夫に喰つてかゝり夫婦喧嘩となり女將は夫の鼻頭に嚙み付き負傷を負はせ人事不省に陥らせ附近醫院にかつぎ込み應急手當中であるが源造は仲々の重態である

德公の惡事 植田署で取調中

石城郡內郷村大工職高橋德太郎(三九)は二十四日午後東白川郡內に於て空巣專門に石城郡勿來町に來たり潜伏中を植田署に於て探知し二十五日本署に引致嚴重取調べ中

鎗と鐵砲 (投書歡迎)

政界の活敎訓

○過去の事は言うて返らぬから言うた所で仕樣が無いと言ふ人があるが、全くさう許りでもない。返らぬ事でも言つて置けば、再び起らない鑑戒ともなる事ができる。そこで一言して置く

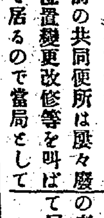
○今更らぬ事ではあるが、若し第五十二議會の時に、三黨首領の會見と云ふものが無く、不自然なる妥協なんかやらずに、其のまゝ自然の趨勢に任せて進んだならば、世の中は決して今日程の面倒もなく、第一財界の動亂も起らなかつたに相違ないそれは事柄が直截簡明だからである。

○若槻首相が最初決心した通りで議會に臨み又た田中、床次兩總裁が、その當時申し合せた通りに寸歩も退かぬとしたら、朝野兩黨に正面衝突は當然である。それは一種の不可抗力と云ふものだ。その結果、政府は在野の連合黨に對して、少數と云ふことは僞りなき事實だ、そこ場合、若槻內閣の取るべき道は唯二つ。

○一は潔よく自ら退く事だ。一は一歩ふみ込み、彼等は輿論を代表しないと認むるならば、宜しく解散を奏請して輿論に問ふべしであつた然るに、それ程直截簡明なるに係はらず、三黨妥協など極めて不自然をやつて終に今日の惨態を遢出するに至つた。

○凡そ世の中に小策ほど、大事を誤るものは無い。小策ほど目前に利益あるが如くにして其實、不利益なるものはない。溯つて言へば、政海が斯く曲折するに至つたのも故ありだ、曾て山本內閣辭職の時、後繼者には脇道をせず、當然正面の在野黨たる憲政首領加藤高明子(伯)を推薦すべきであつた。然るに元老は之を解せず舊套によつて淸浦子を奏薦して中間內閣特權內閣を造つた。所謂る憲政擁護は又是時蜂起したこの體驗は流石の元老にも餘程コタへたと見え其後政變に際しては反對第一黨の加藤子(伯)を奏薦し、今回また正面在野黨たる田中政友會總裁を奏薦したるは、最も鮮かであつた。財界は如何に混亂しても、政變の爲めに政海に騷擾ケましき事件は事件は見當らない是は小策を弄せす、惰實に囚はれず、偏に憲政常道に準據したが爲めだ。元老の省悟や可、尙ほ今後の注意を望む

(老木咲太郎)



かみえづ

或る意味で有名な竹乃家の鶴千代が莫迦に賣出したこれには何か曰くがあるだろうとの取沙汰だが、朋輩のものに言はせると、輕便博愛主義だなんて、惡宣傳をしてるが、實は醉ふと忽ち下身半部を開帳に及んで赤い太股を叩いて氣焔を吐くのが助平客の好奇心をそゝるのだといふ事だ、ハャらない藝者共早速この傳授を學ぶこと▲富美乃家にゐた△△の行衛が分らないなんて、何も騷ぐに當らねへよ△△に女中をして居るんだ但し借金は追つて財界の安定を待つて年賦返濟の事に腑の緖をキメたさうだ

平町紺屋町 藤沼醫院 電話五〇七番

平町南町 上田外科醫院 電話一二九番

日東商會
商會主 長島早苗
本社 福島縣平町白銀町 電話六五〇番
出張所 北海道石狩國平岸驛前 茨城縣多賀郡南中鄉

四倉銀行會社組合
株式會社四倉銀行
四倉電氣株式會社
萬年瓦工業株式會社
四倉運送株式會社
磐城銀行四倉出張所
磐城セメント株式會社

平藝妓屋組合
玉川(電一六八)　谷口(電　八)
甲子(電　四)　三好家(電三五〇)
久本(電二〇九)　山形家(電一二七)
二葉家(電二六四)　米京(電一一九)
橘家(電一〇二)　竹廼家(電　七三)
三島家(電二二一)　吉野家(電二六〇)
開花(電二五〇)　湖月(電二四五)
仲家(電一五二)　福淸(電四三三)
林家(電二一六)　品澤(電三二〇)
富美廼家(電一五三)　眞佐乃家(電三五四)
榮家(電二〇四)

內科 小兒科 皮膚科 花柳科
平町舊城跡(城山)
青沼醫院
醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

入山採炭株式會社
高野喜六
宮崎政雄

講談

血を洗ふ

(22)

高橋掬太郎創作

惡計

布施守八郎揮毫

不意に聲をかけられて昌康ははつと吃驚して振向いた。

「お、重太夫か」

それは昌康の復心の家老早間重太夫であつた

重太夫は意味ありげな笑ひを浮べ乍ら側へ寄つて來た。

「何を、そのやうにお考へでございました？」

心を讀むやうな薮猫らしい眼で昌康の顏を見た。

「ナニ、何んでもないことぢや」

「何を、そのやうにお考へでございました？」

重太夫はさも人をなめたやうな笑ひを浮べた。

「何んでもないとはどうした譯ぢや」

と昌康はてれた樣な面持で打ち消だ。

「どう致しまして、何でもないことがございませうか

重太夫はさも人をなめたやうな笑ひを浮べた。

「何んでもないとはどうした譯ぢや」

「昌康はエツとしたやうに云つた。深雪に刎ねつけられ、奥方に皮肉られ不快でならない處へ重太夫がなぶるやうに云ふので氣に入りの彼のことではあるが昌康は嘲笑された樣な腹立たしさを覺えたのであつた。

「お隱し遊ばすな」

「何を隱したと云ふのぢやましたか？」

昌康の聲は尖つた

「當てゝ見ませうか？」

「申してみい」

深雪に刎ねつけられたのでございませう」

「どうして存じておる」

昌康はすつぱり言ひ當てられて吃驚した。

「その上、奥方に夫さん〳〵皮肉られたのでございませう」

重太は得意そうに云つて笑つた。

「どうして、それを存じておる？」

昌康は流石に赤くなつた

「意久地のないことでございますな」

「そちは見てにつたのか？」

「はゝ仰せの通りでございます」

「さうか、それはとんだ失れ」

昌康は仕方なさうに頭を掻いて笑つた。

「初めから見ておつたか——いゝね初めからと云ふことでもございませぬがお居間へ伺ひしやうを存じましてこれまで參りますとた居間のうちでは只ならぬ騷々しさ、何事かと存じまして耳を寄せまして樣子をうかがひますと君が深雪をたらべになつておいで遊ばすとは思ふて向ふを見ますと奥方が同じ樣に襖へ耳を寄せておいでになります

これは惡いと存じてお報せしたいとは思ひましたが奥方がたられるので顏を出す譯にもゆかず仕方なく襖の蔭にかくれて見てたりました。

「左樣か——」

昌康は苦笑した。

「それで何を考へてたられましたか？」

「ほかでもないが……」

と昌ヤスはあたりを見た

「どうでも深雪を自由に遊き幸福の日▲八白　幸運のばすに考へでございませう日弘め貿始め建築も旅行も

重太夫は昌ヤスの耳に口皆吉し▲九紫　外に出づれをよせて云へ

「さうぢや、

とほりであるが何か良い思案はあるまいか？」

「さあ、ないこともございませぬが……」

と重太夫は思案する樣にして

「こんな方法は如何でございませうか……」

と再び昌ヤスの耳へ口を寄せて何か云はふとしたが

「待て、こんな處では人目に付いてはいけぬ。また何處で見てゐる者がないとも限らぬから居間の方へまゐてこれまで參りますとた居間のうちでは只ならぬ騷々しさ、何事かと存じまして耳を寄せまして樣子をうかがひますと君が深雪をたらべになつておいで遊ばすとは思ふて向ふを見ますと奥方が同じ樣に襖へ耳を寄せておいでになります

これは惡いと存じてお報せしたいとは思ひましたが奥方がたられるので顏を出す譯にもゆかず仕方なく襖の蔭にかくれて見てたりました。

「左樣か——」

昌康は苦笑した。

「それで何を考へてたられましたか？」

「ほかでもないが……」

と昌ヤスはあたりを見た

「どうでも深雪を自由に遊き幸福の日▲八白　幸運のばすに考へでございませう日弘め貿始め建築も旅行も

重太夫は昌ヤスの耳に口皆吉し▲九紫　外に出づれをよせて云へ

「さうぢや、

昌ヤスは脇息を起して肱をつきながら聲を低く問ふた。

※……三月　新月　四日

※……明日　蕃月　廿日

※……吉の凶歷八歷九日

▲一白　目上の引立てはあれど同僚の反目もあらん▲二黒　地位低くとも德あるものは自然に現れ來る▲三碧　兎角古巢は吉いもの外に出でゝは不愛あり▲四綠　人は迂愚と云ふとも矢に從つて進むべし▲五黄　尻を落付け事に識者が安全の道なり▲六

磐城炭鑛株式會社

所長兼採炭部長　氷室清
事務部長　青沼鋒太郎
勞務課長　濱崎善三郎

古河鑛業株式會社 好間鑛業所

所長　下野十朗
經理課長　湊谷定次郎
採炭係長　矢野公一
人事係長　前松佐嘉
庶務主任　安孫子虎雄

入山採炭株式會社

所長　漆野佐市郎
事務部長　吉田宗雄
採炭部長　大貫經次
鑛業所顧問　前田復三

石城郡選出縣會議員〔イロハ順〕
井上茂作
小野晋平
草野順平
古川傳一
木村清治

古河礦業株式會社 好間鑛業所
元山礦夫自治會 新斜坑礦夫自治會
福島縣石城郡好間村

磐城炭鑛株式會社 磐炭會
福島縣石城郡內鄉村

親交會
茨城縣多賀郡重內

入山採炭株式會社
立國勞働自治會
福島縣石城郡湯本町

大倉礦業株式會社
無煙炭礦
建國勞働自力會
茨城郡多賀郡南中鄉

大倉礦業株式會社 無煙炭礦事務所

所長　漆野佐市郎
經理課長　和泉隆介
採鑛課長　尾藤憲祐
勞務課長　高橋榮雄

植田水力電氣株式會社

社長　金成通

堀江工業株式會社

專務取締役　江口忠一

御料理 饅蒲燒 仕出し

平館隣り
四番

御需めの方は

平白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八